

大阪湾再生プロジェクト活動報告

「大阪湾ダイビングスポット創造プロジェクト調査」

平成17年度都市再生プロジェクト推進調査

平成18年12月1日

特定非営利活動法人 環境教育技術振興会(CAN)

～大阪湾再生への取り組み～

平成16年度
アマモ場移植による都市型ダイビングスポット
実現化方策

平成17年度
大阪湾ダイビングスポット創造プロジェクト調査

現地調査・選定
アマモ場づくり
海の見守り隊モニター調査
環境学習講座
大阪湾水中写真展

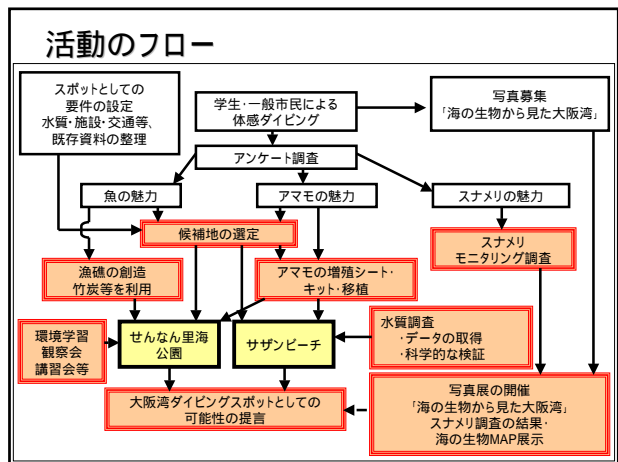
確認されたスナメリ2頭
(提供:温沢映像)

実施および協力機関

発注機関:国土交通省近畿地方整備局
受注機関:NPO環境教育技術振興会

協力団体:26団体 のべ2,300人が参加・協力

NPO・団体	NPO法人 環境教育技術振興会	学校	大阪コミュニケーションアート専門学校
	NPO法人 アマモ種子バンク		大阪府立貝塚高校
	NPO法人 大阪湾研究センター		大阪府立泉南高校
	NPO法人 グリーンパーク熊取		熊取町立東小学校
	うみべの森を育てる会		堺市立浜寺小学校
	海藻おしばくらぶ		阪南市立尾崎小学校
	ハーバタベストーリー香の会		阪南市立箱作小学校
行政	国土交通省 近畿地方整備局	漁協	梅井漁業共同組合
	大阪府		下荘漁業協同組合
	熊取町	民間	大阪ウォーターフロント開発株式会社
	大阪府水産試験場		東洋建設株式会社
	せんなん里海公園		日本ミックヤ株式会社
	二色の浜公園		速形映像



実施場所

大阪湾再生プロジェクト活動報告

「大阪湾ダイビングスポット創造プロジェクト調査」

平成17年度都市再生プロジェクト推進調査

平成18年12月1日

特定非営利活動法人 環境教育技術振興会(CAN)

調査方法

項目	実施方法等
選地調査・選定	二色浜・サザン・里海・小島にて体感ダイビングを実施 ダイバー、ダイバー以外の一般市民を対象にしたアンケート調査 ワークショップは進行役の専門家と共に検討し参加者・市民らと 意見交換を5回行った。
アマモ場づくり	せんなん里海公園とサザンビーチにそれぞれ1m×5m(5枚)の 播種シート設置し同時に1m四方の竹炭漁礁を設置した。 アマモ育成キットの植栽を行った。
海の見守り隊 モニター調査	水質調査3回×2箇所の6回実施。 項目は目視観察および水質・底質調査。 希少生物調査(スナメリなど)、船上目視観察、4回実施。 モニタリング調査3回×2箇所(せんなん里海公園とサザンビーチ)
環境学習講座	小学生(熊取東小学校・浜寺小学校・尾崎小学校・箱作小学校) を対象に3回実施。 事前学習会・アマモキット作成・竹炭漁礁袋詰め実習など環境 学習会を開催。
大阪湾水中写真	3日開催。 活動を通して撮影した写真を展示。 最終日にシンポジウムを開催。

適地調査・選定

- 市民の意見を反映したダイビングスポットの選定
- プロジェクト推進の実験調査候補地選定の情報収集
- 活動推進に向けた基礎資料を収集

1. 体感ダイビングの実施
(4カ所:一般ダイビングユーザー)
2. ワークショップの開催
(5回:一般市民対象)
3. アンケート調査の実施
(400枚配布:一般市民対象)



調査結果

1. 体感ダイビング

場所	日時	参加人数
長松海岸	2005年10月29日	13名
せんなん里海公園	2005年10月29日	13名
サザンビーチ	2005年10月30日	15名
二色の浜	2005年10月30日	15名



2. ワークショップ

場所	日時	参加人数
CAN事務所	2005年10月23日	14名
熊取東小学校	2005年10月25日	37名
CAN事務所	2005年11月8日	19名
せんなん里海公園	2005年12月9日	250名
海遊館	2006年3月19日	55名

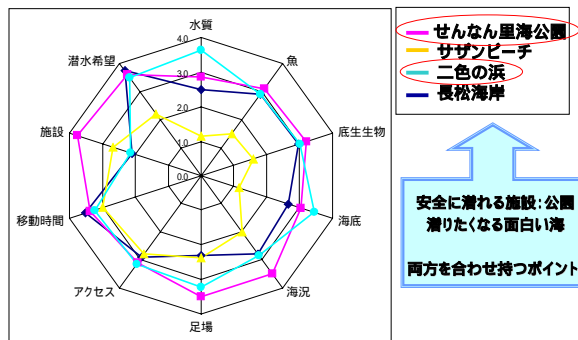


3. アンケート調査

配布枚数 400枚 回収枚数 307枚(回収率76.8%)

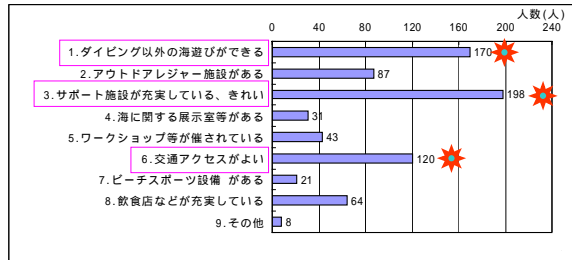
調査結果(体感ダイビング)

体感ダイビング評価



調査結果(アンケート調査)

大阪湾にダイビングスポットができた場合に魅力を感じる要件



候補地: せんなん里海公園
サザンビーチ

アマモ田づくり

- アマモ育成を通じた、良好なダイビングスポット環境の創造
- 市民参加型アマモ育成実験および、市民の環境創造への意識向上。

1. 自生アマモ分布地調査
2. アマモシート・アマモキット・魚礁の作成



海の見守り隊・モニター調査

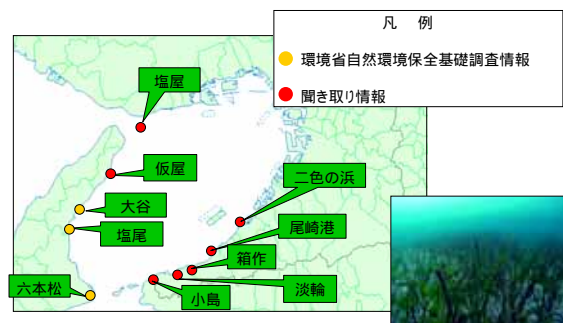
- アマモ田の状況を確認し、生育時の周辺環境を把握する。
- 大阪湾における希少生物生息実態を把握し、ダイビングスポットとしての価値に与える影響を把握する。

1. モニタリング調査(2地点×3回)
2. 希少生物生息調査(4回)



調査結果(アマモ田作り;分布調査)

- 全10カ所(大阪府5カ所;兵庫県5ヶ所)



調査結果(アマモ田づくり)



アマモ播種シート

各地点5枚(マット1m×5m)
購入種子のシート:4枚(1,500個/5㎡)
採取種子のシート:4枚(6,000個/5㎡)

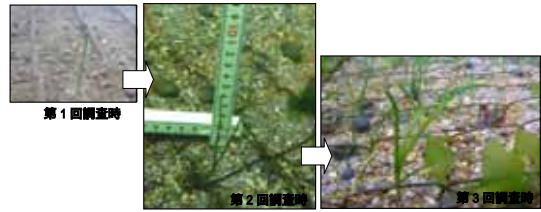


竹炭魚礁 各地点2基



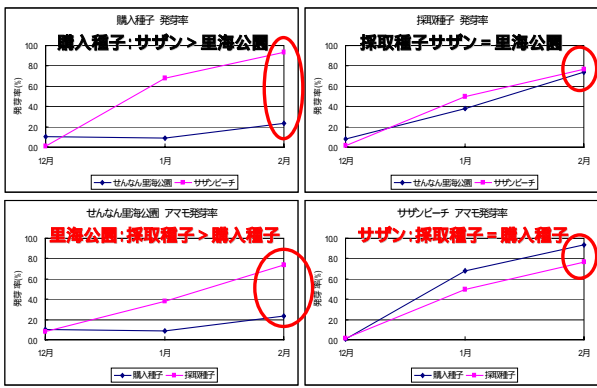
アマモキット 約700名に配布

調査結果(海の見守り隊モニター調査:アマモシート)

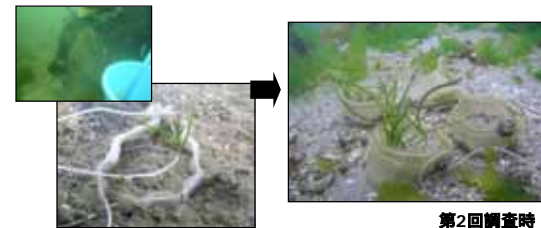


サザンビーチ:種子12000個 1020株発芽
(発芽率:購入種子9.3%、採取種子7.7%)
せんなん里海公園:種子12000個 582株発芽
(生残率:購入種子2.4%、採取種子7.4%)

調査結果(海の見守り隊モニター調査:アマモシート)



調査結果(海の見守り隊モニター調査:アマモキット)

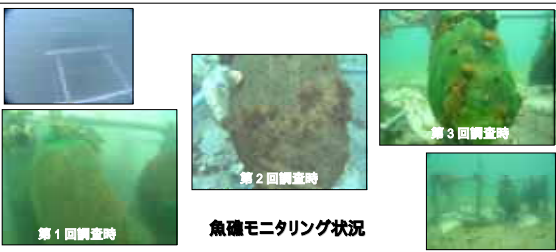


アマモキット移植時

第2回調査時

サザンビーチ:226株 142株(生残率:62.8%)
せんなん里海公園:297株 168株(生残率:56.6%)

調査結果(海の見守り隊モニター調査:竹炭魚礁)



魚礁モニタリング状況

サザンビーチ:35種 1,310個体 カマキリヨコエビ(31%)
ムラサキイガイ(30%)
せんなん里海公園:27種 313個体 カマキリヨコエビ(28%)
ヒゲナガヨコエビ(17%)

調査結果(海の見守り隊モニター調査:竹炭魚礁)



調査結果(アマモ田作り・海の見守り隊モニター調査)

アマモット敷設・魚礁設置

場所	作業年月日	参加人数	潜水作業人数	陸上作業人数
せんなん里海公園	2005.11.6	21名	15名	6名
サザンビーチ	2005.11.13	31名	13名	16名

アマモキット移植

場所	作業年月日	潜水作業人数	陸上作業人数	移植個数
せんなん里海公園	2006.1.18	14名	11人	297個
せんなん里海公園	2006.2.19	12名	16名	52個
サザンビーチ	2006.1.20	10名	14名	126個
サザンビーチ	2006.2.18	10名	8名	52個

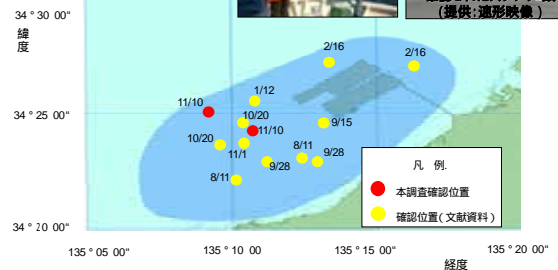
モニタリング調査

活動回数	活動日時	潜水作業員	陸上作業員
1回目	2005.12.4, 6	16名	2名
2回目	2006.1.18, 20	24名	3名
3回目	2006.2.18, 19	24名	17名



調査結果(海の見守り隊モニター調査:希少生物調査)

2005年11月10日 スナメリ 2群3頭確認



環境学習講座

プログラム	実施場所・日時	目的
環境学習会 1	熊取東小学校:2005.10.25 浜寺小学校:2005.11.8 尾崎小学校:2005.11.15	アマモキット作成とアマモ苗の育成を通して、海对环境に対する関心を高める。
環境学習会 2	泉南里海公園:2006.1.18 (熊取東・箱作・尾崎小学校)	大阪湾の自然とふれあう事で環境に対する意識の啓蒙をおこなう。
環境学習会 3	熊取東小学校:2006.3.1	生育状況のモニタリング報告を通じ、環境改善について理解を深める。

学習会1



学習会2



大阪湾水中写真展&シンポジウム

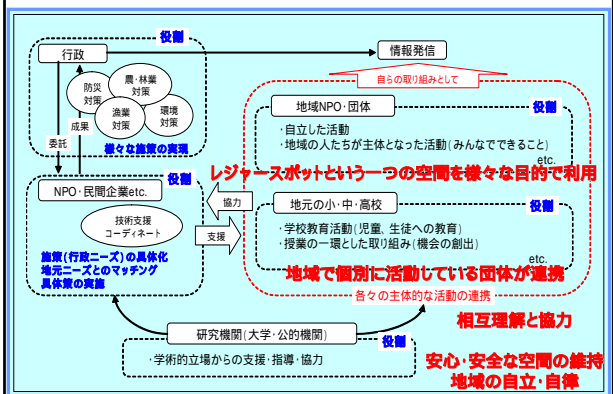


写真展来場者数
:755名(3日間)
シンポジウム参加者数
:105名(1日間)

シンポジウムプログラム

- 【基調講演】**
村田 武一郎(奈良県立大学教授)
 大阪湾のエコトーンについて
北藤 真人(海遊館飼育展示部総括係長)
 海遊館の取組みと大阪湾の生き物たち
田上 博司(阪南大学助教授)
 地元経済と大阪湾岸南部のエコリゾート化
- 【映像発表】** 遠形 豪(遠形映像)
【写真発表】 城者 定史(大阪コミュニケーション専門学校)
- 【パネラー】**
岩本 光紀(NPO法人環境教育技術振興会)
 大阪湾ダイビングスポット創造プロジェクト活動報告
神田 育子・松岡 佑美(大阪コミュニケーション専門学校)
 大阪湾スナメリ調査報告
岡 良(国土交通省近畿地方整備局)
 行政の立場から
岩井 克巳(NPO法人大阪湾研究センター)
 大阪湾の現状とこれから
- 【コーディネーター】**
 嘉田 良平(アミタ持続可能経済研究所)

今後の課題



特定非営利活動法人
環境教育技術振興会



CAN・・・これが私たちのコンセプトです。

- できる。やってやれないことはない。
私たちの取り巻く環境をよりすばらしいものに、
人と自然との調和を図り、生き生きとした環境を創っていく……
- まずは“できる”ことからやっつけていこう。
- その思いで私たちのCANは始まりました。
- 活動の広がりには、民間と行政の協力という
環境活動の新しいモデルを目指します。

和歌山サンゴ復活プロジェクト&リーフチェック



田辺湾海底環境保全事業

漁協との
協力で港
の掃除



大阪湾再生プロジェクト

平成16年度

- 大阪湾クリーン作戦
- 大阪湾コンブ養殖実験
- ミニ人工干潟による生物育生調査実験
- アマモ移植による都市型ダイビングスポット計画



平成17年度

- 大阪湾ダイビングスポット創造プロジェクト
- 大阪湾クリーン作戦



行政と市民の連携

- 環境活動では、すでに様々な海域でその技術の実証研究が行なわれています。
- しかし、これらの実証研究をNPOや市民が主体となって行なった例は少なく、ボランティアダイバーや市民が主体的に実証研究を行なった「大阪湾ダイビングスポット創造プロジェクト」は、全国でも新しい試みです。

大阪湾再生が目指す将来的な
ビジョンにも合致するものになりました

これからの課題

- 資金と継続性
- 新しい企画
- 活動を広める
- 広報戦略
- プロジェクトのインフラ整備
- 行動、目的の設定
- スタッフの確保
- 環境への働きかけ
- 自生する生物の力で！

あきらめなければ夢はかなう！